

# GOD WITH US

Part 10: EARLY LETTERS

Messages 16-20 – Romans

Life on the Altar

Romans 12-16

## 神はわれらと共に

パート 10：初期の手紙

第 16-20 メッセージ-ローマ人

祭壇の上のいのち

ローマ人への手紙第 12-16 章

## 前書き

パウロの手紙の殆どは、二つの基本的な部分に区分することができます。一つは、私たちのために神がなさってくださいましたことについての真実。次に、私たちが神のために生きることによって反応するべきであるという教えです。ローマ人への手紙第 1-9 章は教義の部分です。ローマ人への手紙第 12-16 章は実用的な部分で、学んでいくと、パウロがキリスト者の生活に関連する様々なトピックを語り進んでいるのがわかります。私たちの生き方は、神の驚くべき恵みに対する反応です。神への従順とは、日々、神に『感謝』を捧げるための感謝状のようなものです。

生きた供えもの：12：1,2

12:1 兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。12:2 あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。（ローマ人 12：1，2）

「神があなたのためにしてくださったすべてのことのために」（ローマ 12：1 NLT）という句に注意してください。神が私たちのためにしてくださったすべてのことのために、私たちは、いのちを生きた供え物としてささげるべきです。神は、すでに私たちに死に行くささげもの、つまり御子イエスのおいのちをお与えになりました。したがって、私たちへの神の大きな愛と犠牲に対する反応として、神のお目的のために用いていただくために、神のために生きるために、私たちのいのちをささげるよう招いておられます。

私の人生を所有しているのは誰でしょうか？ あなたの人生が祭壇の上にささげられているなら、あなたが生きた供えものであるなら、キリストとの歩みのあらゆる細部で良い進歩

を遂げるでしょう。一方、あなた自身が人生を所有しておられる場合、生きた供え物として、完全に祭壇に捧げておられないなら、常にあなたの従順は妨げられます。祭壇なしに、キリスト者として成熟することは決してありません。ご自分の人生をキリストの主権に完全に委ねられましたか？

私たちの心の思いは、霊的成長に大きな影響を与えます（ローマ12:2）。神は、私たちの心を組み替えることによって、私たちを変えたいと願っておられます。神のみ言を頭の奥深くに刻みこむためには、かなりの時間を費やす必要があります。神は、み言を通して私たちを変え、成長させてくださいます。神に心を変えていただくことを許すとき、「あなたにとって、良く、喜ばしく、完全な神の御心を知ること学ばれるでしょう。」

### 霊的な賜物を用いる：12：6-8

**12:6** このように、わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし、**12:7** 奉仕であれば奉仕をし、また教える者であれば教え、**12:8** 勧めをする者であれば勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指導する者は熱心に指導し、慈善をする者は快く慈善をすべきである。

（ローマ人12：6－8）

あなたの人生が主イエス様に服従するならば、あなたは王に仕えるために、神から与えられた霊的賜物を発見し、そして展開することに熱心に粘り強くなります。パウロは、ここで、いくつかの「霊的賜物」についてのみ言及しています。

（より完全な霊的賜物リストについては、エペソ4章、第一ペテロ4章、第一コリント12章も参照してください。）

### キリスト者の人格：12：9-21

パウロは、キリスト者がいかに生きるべきかについて詳細に説明しています。よく似た「美德リスト」は、パウロの手紙全体を通して見られます。これらのリストは、キリスト信者として、いかに行動できているかを評価するのに役立つ道具です。神は、私たちを成長させ、イエス・キリストのお姿に似せた者とされたいと願っておられます。したがって、私たちの性格は、神にとって最も重要であるのです。パウロは復讐の問題に特別な注意を払っています（ローマ人12：17-21）。私たちは、「報復」や「復讐」をすることを決して求めず、他の人と平和になるようにあらゆる努力をする必要があります。善をもって悪に打ち勝たなければなりません。

報復しようとしている人はいますか？ その人と和解するために最善を尽くしましょう。あなたがすべてを尽くしたのなら、あとは神に委ねましょう。最後に、あなたを傷つけた人

に祝福を与える方法を模索しましょう。これは人生の葛藤に直面する私たちへのパウロからの忠告です。悪に善で返すことは私たちの証となります。

### キリスト者と上に立つ権威ある者たち：13：1-7

この箇所では、人間による政府について、いくつか重要なことを教えています。1) すべての権威は「神によって、そこに置かれた」。もちろん悪い者であっても。ローマ皇帝は、彼らこそが「神々」であり、すべての人に忠誠を要求しました。それでもパウロは、すべての権威は、例え悪い権威であっても、神から権威の座を与えられていると言いました。2) キリスト者は、権威に服従して生きるべきです。そうすることで神への服従に生きているからです。私たちの服従は、私たちの王であるキリストへの忠誠心の外面的表現です。3) 市民の礼儀正しさと平和の維持は、人間による政府のために神が定められた役割です。4) 上に立つ権威ある者たちも生計を立てる必要があるため、キリスト者は税金を支払う必要があります。5) キリスト者は権威ある者たちに対する名誉と尊敬の態度を維持する必要があります。

権威が神のみ言に反することを求めたことがありました。エルサレム当局からイエスについて話すのを止めるよう命じ

られたとき、使徒たちは、次のように答えました。「人間に従うよりは、神に従うべきである。」(参照：使徒 5:29-使徒 4：19,20)。

### キリスト者と愛：13：8-10

お互いを愛する義務を除いては、誰にもいかなる負債をも負ってはなりません。あなたが隣人を愛するなら、神の律法の要求を満たすでしょう。戒めについては、「姦淫を犯してはなりません。殺してはいけません。盗んではいけません。欲しがってはいけません。」等とありますが、すべての戒めは、この一つの戒めに要約されています：「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」。愛は他人に悪いことをしないので、愛は神の律法の要求を満たします。

無条件の愛．．．、部分的な愛ではありません。これはキリスト者が世にもたやすために召される文化的に反する様な愛です。ただ、理由なしに愛すること。そして、この愛は、簡単に愛することができる特定の人々だけでなく、すべての人々に表現されるべきです。パウロは、『あなたが隣人を愛するなら、神の律の要求を満たすでしょう。』と書いています。キリスト者にとって、あなたが愛する人が見知らぬ人なのか、あなたの友人なのか、彼らが近くにいるのか遠くに

るのか、黒人なのか白人なのかは関係ありません。私たちの愛は、文化的にそぐわない愛であるべきです。このような愛を体験することは、非常に美しいことであり、私たちがイエスの従者であることを明確に示します。

### キリスト者と道徳：13：11-14

ローマの文化は、現代の文化と大差ありませんでした。この一節からわかるように、性的不道徳や薬物乱用などを楽しみ奔放なパーティーが行われていました。それは上層階級に限られませんでした。そうでなければ、パウロが普通のローマのキリスト者たちに参加することを控えるように言わなかったはずですが。不道徳な生活は、社会のあらゆる階級層の中で起こっていました。当時も今も、キリスト者は誘惑に対して、目を見開いて警戒して生きる必要があります。

### キリスト者と議論の余地のある事柄：14：1-23

パウロがここで扱っている、きよい食べ物と汚れた食べ物、聖なる日と平日についての問題は、「灰色の問題」と呼ばれることもあります。つまり、これはどちらが正しく、どちらが間違っているというように「白黒」つけられる問題ではありません。これらは、イエス様が与えてくださった実践

／ライフスタイルの選択の自由です。それでも、一部のキリスト者にとっては、これらの灰色の領域になると、まだ良心の呵責を感じる人たちがいます。律法から解放されているけれども、まだ律法の下にあるように感じる人もいます。したがって、これらの活動に携わるとき、ある程度の羞恥心と罪悪感をもたらし、キリストとの関係を妨げる可能性があります。

ユダヤ人キリスト者は、宗教的法律、義務および規制に満ちた背景から来ていました。特定の食べものは聖い一方、その他の食べものは「聖くない」とされていた。異邦人キリスト者は、そのような背景から来ていないのでキリスト者になってから、食べもの関連で罪悪感を感じることなく、あらゆる種類の食べ物を楽しむ自由を感じました。

キリスト者がいかに調和して生きるべきかを理解するための鍵は、そのような「灰色の問題」は、私たち一人一人が最終的には、神の御前に立って説明する責任があることを覚えることです。裁くのは神の仕事で、そのような問題で、私たちがお互いを裁く必要はありません。調和して生きるためのもう一つの鍵は、愛の中を歩むことです。特定の活動に参加する自由を感じながらも、参加すると別の兄弟姉妹がつまづく（私の模範に従い、彼らが自信を裁いてしまい、霊的な進歩が妨げられる）ことを知っているなら、自由の法則ではなく、愛の法則によって

導かれるべきです。この場合の「自由」は、自由を行使する自由ではなく、私の兄弟を愛する自由です。（たとえ心の中で、そのようにすることが神の目に間違っていないことを知っていたとしても、）「自由」とは、利己的にならない自由です。私の自由が兄弟姉妹への愛によって支配されることを可能にすることによって、他の人の人生における神の働きを尊重することになり、それはイエス様を尊重することになります。他の人が自分の良心に反して罪を犯すことがないように手助けしていることになります。

聖アウグスティヌスは、ローマ人の第 14 章で議論された問題を上手く要約しています。本質的な統一、非本質的な自由、そして、すべてのことにおいて慈善。

### パウロと将来の計画：15：1-33

この章の 3 つの主要な部分のそれぞれは、パウロの祈りで終わります。このような祈りは、パウロの書簡では一般的でした。しばしば、神への祈りとキリスト者への勧め（願い）が込められています。以下は、ローマ人への手紙第 15 章の 3 つの祈りです。

**15:5** どうか、忍耐と慰めとの神が、あなたがたに、キリスト・イエスにならって互に同じ思いをいだかせ、**15:6** こうして、心を一つにし、声を合わせて、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神をあがめさせて下さるように。（ローマ 15：5，6）

**15:13** どうか、望みの神が、信仰から来るあらゆる喜びと平安とを、あなたがたに満たし、聖霊の力によって、あなたがたを、望みにあふれさせて下さるように。（ローマ 15：13）

**15:33** どうか、平和の神があなたがた一同と共にいますように、アアメン。（ローマ 15：33）

- 力のない人たちの弱さを担うために力のある者を用いる。

### 15：1-6

一節は厳密に次のように書かれています。「私たち、力のある者は、力のない人たちの弱さを担うべきです」。パウロは、キリストの体には何らかの理由で「力のない」人たちがたくさんいることを思い出させます。ここでの「弱さ」の問題は、第 14 章における「弱さ」の問題よりも幅広いものです。第 14 章の「弱さ」とは教義的な類の弱さであり、もはや私たちを拘束しない過去の規則との結びつきでした。第 15 章においてパウロは、力を欠くあらゆる形の「弱さ」について

言及しています。弱い者を援助するために強い者に呼び掛けます。同様の警告は、ガラテヤの教会へのパウロの手紙の終わりにもあります：「**6:2 互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。**」

(ガラテヤ 6:2)。これは神の家族の中で、お互いに対して持つ主要な義務です。強い者は力のない者の助けにならなければなりません。パウロは、この点に関する私たちの模範であるイエス様を指しています。

近くに弱くて困難な時期を乗り切るために助けを必要としている人がおられないでしょうか？ 周りに、援助を必要としておられる人がいたら、示していただくようにより頼みましょう。その人たちが力を取り戻し、再び自分の足で立つことができるまで、重荷に耐えるのを助ける力をあなたに与えるように神に求めてください。兄弟姉妹のためにそうするとき、イエス様の追随する者として、私たちに与えられた愛の律を果たしているのです。

#### - 神の栄光のためにお互いを受け入れなさい。 15 : 7-13

キリストの体の中のユダヤ人も異邦人も！初期のキリスト者にとって、これがいかに困難であったかは想像すらできません。ユダヤ人と異邦人は、何世紀にもわたって非常に高い民族的、宗教的、文化的壁によって激しく分断してきました。ここ数年間で、それらの壁はイエス様によって引き下げ

られた結果、ユダヤ人キリスト者と異邦人キリスト者は、一つの新しい「家族」に統合されました。パウロは、この部分で旧約聖書の引用を用いて、神がユダヤ人と異邦人を一つの新しい家族として結ばれることをずっと意図してこられたことを示しました。

#### - 福音を前進させる。 15 : 14-24

パウロは、異邦人の中での過去の宣教の業績について記しながら、個人的な体験を語ります。パウロは、「エルサレムからイルリコに至るまで」キリストについて説教しました。イルリコは、イタリアの東、ローマ帝国の東方の属州で、いかに広範囲にわたってキリストの福音を述べ伝えたかを示しています。何という業績でしょう！

#### - 貧しい人々と資源を共有する。 15 : 25-29

パウロは、ローマに行く準備をしていたとき、別方向に非常に重要な寄り道をする必要がありました。エルサレムに戻って、異邦人教会からパレスチナのユダヤ人キリスト教会のために愛を示す行いを表現する必要があったのです。パウロには、次の3つの計画がありました。1) エルサレムに行き、その教会に異邦人の教会からの多額の経済的贈り物を贈る。2) エルサレムからローマに直接行する。3) ローマを訪れた後、スペインまで西に移動する。しかし、パウロに持っておられた神のご計画は非常に異なっていました。

- すべての計画について祈る。 15：30-33

世界への伝道使命のために危険を冒そうとしていたパウロの最後の要求は、そのための祈りでした。具体的な祈りは、パウロに危害を加えようとしていたユダヤ人からの守りと「喜びの心を持って」ローマにたどり着くことができるためでした。神は、いつも私たちが望む通りに祈りに答えられるとは限りません。パウロは、福音に反対する人々によって、ユダヤで逮捕され、数年間投獄されてしまいました。最終的にローマにたどり着いたとき、囚人の身でした。航海中、船は荒れ狂う激しい嵐に襲われます。船は難破し、パウロと他の乗組員たちは、泳ぎ着いたマルタ島に上陸し、パウロはそこで毒ヘビに噛まれます。多くの試練を乗り越えた末、ようやくローマに到着しました。私たちの想像通りに、神の御心が発揮されることはめったにありません！

パウロの友人へのあいさつ：16：1-27

ローマ人への手紙の最後の章は、パウロの友人たちの最も長いリストであり、彼が挨拶を送るという点で珍しい箇所です。これは、人との関係がパウロにとってどれほど重要であったかを明らかにします。また、パウロの生活と宣教における女性の役割を具体的に強調しています。

ローマ人への手紙第16章の女性たちに関するシャーリーによるコメント

パウロは、女性に対して否定的な態度をとる「排外主義者」として描かれることがあります。これは、彼が女性の役割と行動を教えている手紙の部分から派生しています。21世紀には、特定の文字で書かれたこれらの指示のいくつかが不快にとられ、女性たちはパウロが偏見を持っていると結論付けます。それどころが、ローマ人への手紙第16章では、パウロが女性をどれほど大切にし、尊敬していたかを示しています。女性たちは、パウロの個人的な生活において、イエス・キリストの「良い知らせ」を広める使命において、宣教を支援し、信者を教育し、家庭教会のために家を提供し、信者に仕え、「霊的母」となり、さらに他の多くの方法で「主のために一生懸命働きました」、この最も重要な手紙をローマに届ける任務さえ果たすことによって、女性たちの役割を肯定しました。

パウロが特定した28人中、10人は女性でした！パウロの評価では、女性は平等な同労者であり、主にある姉妹であり、キリストとその教会のために献身する信者の真の模範でした。これらの重要な女性のうちの4人を見てみましょう。

フィベ（16：1,2）は、できることなら独身でいなさいというパウロの訓戒を果たした女性の輝かしい例でした（第一コリント

7:34)。男性であろうと女性であろうと、独身であることは、主に仕えるためにより多くの時間、エネルギー、柔軟性を提供できるからです。パウロは、フィベを「我が姉妹」と呼び、ローマのキリスト者に「彼らの姉妹」として紹介しました。フィベは、サーバント（聖書的）、もしくは、ディアコノス（執事）として、交わりにおいて、何らかのサーバントリーダーシップの役割を果たしました。（パウロが重要な働きをしていた）コリント郊外の港、センクレアの家庭教会の指導者になった初期の改宗者であった可能性があります。自分の家を用いて会議を主催したのかもしれませんが、パトロン（恩人、支持者、スポンサー、擁護者、または、保護者等）と呼ばれていました。独身女性として、収入、または相続財産を用いて、パウロや他の多くの人々を支えました。自分が財産の「所有者」ではなく、「神の財源の管理人」であることを知っていたので、彼らと財産を共有しました。フィベを信頼していたパウロは、ローマ人への手紙全書をローマの教会に届ける役割を任せました。最後に、ローマで彼女を迎える人々に、彼女は『聖徒にふさわしい』と推薦し、自分も含め他の多くの人々を助けてくれた者ですので敬意を表し、彼女の必要を満たしてほしいと願いました。

**プリスカ（16：3-5）**、アクラの妻であるプリスカは、人生と宣教において夫のパートナーでした。二人は、新約聖書の中で、6回言及されています。子供についての言及はありません。

ん。ローマ帝国を動き回ることができるパウロの協力者になる自由を与えたことでしょう。プリスカは、いつも夫のアクラより先に言及されていることは、宣教においての彼女の卓越性を表します。おそらく彼女のみ言の知識と、ホスピタリティのスキルによるものと考えられますが、夫やパウロやアポロに劣等感を感じさせることはありませんでした。この夫婦は、コリントでパウロと会い、共に働きました（使徒18章）。後にエペソで家庭教会を率い、アポロという名の若い才能ある指導者を指導しました（使徒18：24-26）。後年、ローマで家庭教会を開きました。ローマ人第16章で、パウロは、この夫婦について、「この人たちは自分の命の危険を冒して私の命を守ってくれた」私の仲間の同労者」と呼びました。この献身的な夫婦は、ローマ帝国全体で、人生と宣教の同労者およびパートナーとしてよく知られていました。プリスカは、子供を産まなかったことを無駄にしなかった女性でした。子供がいないことにおそらく失望し、時には疑問を抱いたに違いありませんが、幕屋作りの商売で、夫と協力し、代わりにローマ帝国全体で「霊的子供たち」を育てるために神によって用いられることを選択しました。パウロの協力者であり、パウロを励まし、あらゆる教会を祝福しました。

**ユニアス（16：7）**は、アンドロニカスと共に、パウロより前にキリストを信じるようになった、長年のクリスチャンであ



った人として紹介し、あいさつしています。ユニアスが独身であったのか、アンドロニカスと結婚していたのかは明らかではありません。パウロは二人を親族、または親類と呼んでいます。おそらく、同じユダヤ人部族、ベニヤミン族であったか、あるいは、実際に親戚であったか、または、同じユダヤ人であったことを説明していたのかもしれませんが。「彼らは使徒たちの間でも傑出しています。」フニアスは、「素晴らしい」評判の高い女性でした。これは、キリストのメッセージを世に伝えた人々の間で、彼女の貢献が非常に重要であったことを意味します。「使徒」という称号には、狭い定義と広い定義があります。どちらの場合も「遣わされたもの」を意味します。フニアスは、初期の危険で勇気を要する時代に、イエス・キリストの福音を伝える使者として派遣された使徒たちの一人でした。パウロは、「私と一緒に牢獄に入れられた」と述べています。フニアスは福音を恥じませんでした。パウロと共に苦しみ、投獄されることさえもいとわなかったのです。パウロは、アンドロニカスとフニアスの両方に深い敬意を払い、ローマの信者たちに、最も困難な時期でも勇気を持ってパウロの傍に続け、イエスの使命において、彼らがどれほど重要な人物であるかを知ってもらいたいと思いました。

**ルポスと私の母 (16:13)**。ルポスは、イエスの十字架を運ぶように命じられたシモンの息子として、弟のアレキサンダーと一緒に言及されています (マルコ 15:21)。ルポスとその母親は、パウロが書簡を書いていたとき、ローマに住んでいました。ルポスの母親の名前は述べられていませんが、2人の息子の母親としての彼女の影響は、世の母親たちを子供たちにイエス・キリストについて忠実に教えるよう促します。彼女は実の息子だけにとどまらず、パウロに対しても「母」のごとく手を差し伸べました。「神の家族」において、若い人たちにとっての霊的な母親、または父親になることは、偉大な特権であり、責任でもあります。パウロに、まるで我が息子のごとく愛を注ぎ、育んだルポスの母に、パウロは深く感謝し、愛しました。この記述からも、年配の女性に対するパウロの心を理解することができます。パウロが母親のような愛からいかに恩恵を受けたか心を開いて共有しています。

パウロは、キリストと人々への忠実な献身に関し、ローマ人第 16 章において、10 人の女性を表示しました。状況に関わらず、彼女らはその人生をそれぞれの方法で神のご栄光のために用い、自分たちの命を危険にさらし、牢獄にまでも行く女性であると肯定しました！ 私たちも、キリストとその使命のために、また、すべての年齢と人生の歩みにある人々の

ために、信仰によって、彼女たちの素晴らしい模範に従うことをいとわない者とされますように。

その他の興味深い備考：ツルパナとツルポサは姉妹であり、おそらく双子でした（16：12）。彼らの名前は「可憐」と「繊細」を意味しますが、「主の働き人」と表現されています。エパネト（16：5）、アムプリアト（16：8）、スタキス（16：9）は、「最愛」と呼ばれています。学者たちは、皇帝の奴隷として、それぞれの名前を含む碑文を見つけました。あなたが誰であったか、またはあなたがどこに住んでいたかなどは実際には問題ではありません。重要なのは、キリストを知り、キリストを知らせたいというあなたの情熱です。**家庭教会の指導者たち**。ローマの「教会」は、実際には、街中に点在するこれらの家庭教会の多くで構成されていました。このことは、それらの信者のグループを導くために質の高い指導者が必要であることを意味しました。最後に、パウロは、共にいる者たちからの挨拶も加えます：テモテ、パウロに非常に愛されている霊的息子。テルテオは、パウロの秘書であり、ローマ人への手紙を執筆しました。ガイオは、コリント滞在中、パウロの最愛のホストでした。エラストは市の会計でした。クワルトもまた、別の最愛の兄弟でした。